

様式 2

平成25年度 安曇野市食育推進会議（第1回） 会議概要

1	審議会名	安曇野市食育推進会議（第1回）
2	日 時	平成25年5月27日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	穂高健康支援センター
4	出席者	本郷会長、小山副会長、小室委員、三澤委員、手塚委員、松田委員、 宮坂委員、帯刀委員、豊田委員、保高委員、南沢委員
5	市側出席者	飯沼健康福祉部長、太田健康推進課長、高橋課長補佐、岩原管理栄養士、 渡邊保健師、笠井歯科衛生士、宮島課長補佐、久保田係長、小松管理栄養士、 牧瀬管理栄養士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年5月30日

協 議 事 項 等	
1	<p>会議の概要</p> <p>(1) 開 会</p> <p>(2) 委嘱書交付</p> <p>(3) 健康福祉部長あいさつ 会長あいさつ</p> <p>(4) 自己紹介</p> <p>(5) 協議事項</p> <p>① 食育推進計画策定の方向性について</p> <p>② 食育推進計画策定までの流れについて</p> <p>③ 食育推進計画策定に向けた市の課題について</p> <p>④ 平成25年度食育推進予定について</p> <p>⑤ その他</p> <p>(6) 閉会</p>
2	<p>審議概要</p> <p>① 食育推進計画策定の方向性について</p> <p>(会 長) それでは、食育推進計画策定の方向性について事務局より説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 食育推進計画策定の方向性についての説明</p> <p>(会 長) 方向性について説明がありましたが、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。</p> <p>(会 長) 健康づくり計画（第2次）は、10年ぶりにまとめられたのですか。</p> <p>(事務局) 前回の計画は19年度から23年度の計画になっています。今計画は、本来であれば24年度からの計画になりますが、国の第2次の計画を想定して準備をしたため、1年間空白があり、25年度から新たな計画を立てました。</p> <p>(会 長) 第1次の計画を評価して、それを基にして新たに作られたということで、またご説明がありますね。安曇野市の位置がどこら辺にあるか、長野県の中、他の県と比べてどうか。いろいろな見方があるが、1つの見方として安曇野市が平均よりもかなり下回っているところはどのような点で、もし問題点がある、あるいははっきりしないとしたら、成績の良い自治体の取り組みを調べて、可能であれば、このグループで視察に行って、安曇野市の政策に反映したらどうか。</p> <p>(委 員) 今現在食育を推進している部署へ前回の計画の反省や来年度は実践に向けてやるということをおろかじめお願いしておけばよいと思う。</p> <p>(委 員) 前回の計画から5年間で、効果があつて変わったところ、変わらなかったところについて、どういうことか検証をした上で、テーマに沿って、うまくいかなかった点はどうか、よく伸びた点でもっと力を入れてやるにはどうするかというところを教えてくださいながら話ができたらよい。</p> <p>(会 長) 方向性についてはいいですか。国の政策を参考にしてということ。よろしくをお願いします。</p> <p>② 食育推進計画策定までの流れについて</p> <p>(会 長) それでは、食育推進計画策定までの流れについて事務局より説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 食育推進計画策定までの流れについての説明</p> <p>(会 長) ただ今の説明について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。</p> <p>(委 員) 生活習慣病予防が念頭にあるとおっしゃいましたが、保育園、幼稚園でやる場合に生活習慣病という風に枠をはめちゃっていいのか。それぞれの部署の考えもあると思う。方向性が強いと思います</p>

がどうですか。

(事務局) 国の計画に沿って、3つの重点課題を念頭に置きますが、それ以外にも問題と思われることがありましたら、少し色付けをするというような形で行いたい。あまり方向がずれて計画自体がまとまらないものになってしまうといけないので、まず生活習慣病予防を念頭に置いて色付けをするという形で考えたいと思っています。

(委員) 食育といえば、ごはんを作って食べる、家族で楽しく食べるとか、そういうことが主だと思う。いろいろな部署の考え方があってと思うので、実践的な研究にしていいただければと思う。こちらの方で統制をしない方がいいと思う。

(事務局) 食育について、特に生活習慣病予防に限定をしているわけではなくて、ここを中心にその他関連する部門でと考えております。

(事務局) 子どもたちの抱える問題というのも楽しく食べていてもきちんと体をつくっていくために大切な、押さえておかなければいけない部分もあると思う。そこは健康推進課としては、きちんとやっていかなくてはいけない部分かと思っています。まったく生活習慣病と同じであれば健康づくり計画と同じになってしまうのですが、食というのは少し幅が広いのでそこについてもご意見を伺っていきたくて考えております。

(会長) 国の第2次食育推進基本計画を見ると、基本的な取組方針のところは今委員さんがおっしゃったことも書いてありますし、その辺をバランスよく見ていただいて、計画に出していただくというようなことでよろしいでしょうか。

③ 食育推進計画策定に向けた市の課題について

(会長) それでは、食育推進計画策定に向けた市の課題について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 食育推進計画策定に向けた市の課題についての説明

(会長) ありがとうございます。いろいろな問題点見えてきたかと思いますが、まず始めに前計画の評価について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(会長) これを拝見すると食育に関心を持っている人の割合、歯のことは達成されているところが多いですね。それに対して、朝食を毎日食べる人の割合、地産地消について関心を持っている人の割合については、悪化しています。この前々計画というのもあるのですか。

(事務局) 前計画が始めです。

(会長) 食育に関心を持っている人は、なんとなく食育という言葉を知っているということでしょうか。その質問については、96%位あるわけだから、これはとりあえず置いて、中身が大事だと思う。朝食とか、一緒にごはんを食べるとかそういったところで、本当は一緒にごはんを食べたいのだけれど、職の関係で朝早い、夜遅いとかそういった関係で食べられないとかあるんですかね。中学2年生で半分くらいしか食べていないですね。

(委員) 6月に食育月間、ポスターの配布・のぼり旗設置・広報掲載とありますが、90%になってるんだからやる必要ないじゃないかと思うが、これやるのですか。

(事務局) 6月は食育月間ということで、大々的に何か活動はしたいと思います。

(委員) やるのなら、具体的に参考になることにしてほしいと思います。ただ食育月間だから気をつけましょうでは分からないと思うんですよ。

(委員) 第1次計画の基本理念のところなんです、食で育む健康で豊かな人づくり、人づくりが食育の1番の目的だと思います。国の方針もそうですが、厚生労働省側の色合いがすごく強いような感じがしています。本来国の計画も内閣府が旗を振っていました。なぜ内閣府がもったかという、厚生労働省だけではなく、文部科学省と農水省、3つの意見をまとめるために内閣府がもっていたという経過があります。ただその中で厚生労働省が強いんですよ。長野県を見ると全国の中では非常に農業県です。農業生産物、少しずつ減ってるとはいつても、農業人口、特にお年寄り側の方たち多いです。安曇野市を見ると非常に農業生産多い、いろんな物が作られていて、非常に豊かなところ。第1次計画の1つの柱に食の理解と継承と上げてくださっていました。農業体験とか地域のふれあい、学校に農作物を納めるために一生懸命やっている農業団体もあります。そういう中で健康の柱も1つとても大事ですし、心育ち、農業を通じたものも大事です。地産地消の評価はありますが、健康の方に評価が多くなっているの、学校でどういう取り組みをしてきて、農業体験が以前に比べてどの程度増えた。それによって子どもたちの食に対する関心がどうなった。もうちょっと色合いの違うところの評価に今後の考えがあってもよいかと感じます。

(委員) 好き嫌いというのは、野菜を作って野菜嫌いが直ったというのものもあるし、長野県はなぜ長寿かと言うと野菜をたくさん作ってそれを食べているから。栄養とかメタボリックという風に言っちゃうと苦しくなる感じがします。

(事務局) 安曇野市は、健康長寿を掲げました。健康長寿と言うのはごく当たり前で寿命が尽きるまで元気で第1線でやりましょうよということです。寿命はいつどうなるか分かりませんが、生きてる内は元気でやりましょうというのを基本にしています。食の問題を考える時にいろんな側面があると思います。食ということに関して言えば、文化的な側面、歴史であったり、地域であったり、家庭であるかもしれませんが。食をなぜ皆食べるのと言ったら、命を長らえる食べるものによってしか人間は生命を維持できない。生き物をとって人間という種を保存しているため。これを分析するのが科学的な側面。今の日本は基本的に市場経済でやっていますから、経済的な側面があります。生業としても

たなければ、流通もありませんし、経済活動もない、こういった側面もあると思う。これらを全部含めて食育ということで国にしても言っているんだと理解しています。1番最初の計画をみると、本当にすべてがここに絡んでいます。その中心になっているのが食に対する感謝を持ちましょう。裏返していえば、今食べ物を粗末にしている。食べることを必要と感じてない。私たちがやるべきことは、食べるってどういうことなのか、教えていく。広げていく。その活動が必要です。先ほど人づくりとおっしゃいました。まさにそのとおりです。食べ物に関しての考え方をもう一度見直しましょうよということで食育の計画はできたはずですが、第2次になって国が何を言い出したかと言うと今までは周知しようということを前提に、言われたことをやってきました。そこから少し内容を彫り込んで食べるってどういうことなのか、食べ物ってどういう物なのかということをもっときちっと広げたり理解したりしましょうよという風に理解しました。先ほど生活習慣病という話が出ました。これは切り口の1つです。命あるものをとって命を長らえるという前提に立って、何を食べたらいいか、どう食べたらいいかというのが非常に大事です。ですから人づくりっていうのもそういった科学的な分析に基づいて当然行われるべきですし、やるべきだと思っています。生活習慣病というのは1つの切り口ですので、この会議の中でぜひそういったものを念頭に置きながら、科学的な分析とか、経済的な効果とか、文化的な側面、生き方をどうしていくか、総合した形の計画になればいいと思います。全部をやることはなかなかできないことだと思います。こういったことを中心にやっていきましょうと出していますが、なかなか分かりにくいと思います。全体的にまだまだ食に対して皆さん1人1人が真剣になってないということではないかと思っています。前回の会議で、作るということをもって食に対する関心が広がっていくというお話がありました。そういうことを含めて食のもつ意味を広げるために1つの目標、体、健康を位置付けるのはとても大事だと思います。そういう意味で健康づくり計画を大きな目標としました。

(会 長) 課題についてご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) 養護の先生にお聞きしたいのですが、学校よりと学校給食よりというところで、「朝食の内容が乏しい」「保護者の意識が低い」「保護者の習慣が子どもに影響している」「食事や栄養に関しての学習の場が少ない」と書いてあるが、食育のターゲット、力を入れていかなければいけないところは保護者だと思う。先生と一緒に毎日給食を食べてますよね。それで指導の場が少ないっていうのはどうですか。PTAもあるわけですよ。保護者会で説明してやっていかないといけない。これからまた頑張ってください。実際、学校の方ではどうですか。

(委 員) 小学校ですが、毎日給食を用意するところから食べるところから片付けるところまで、全部担任の先生がついてます。職員にとって給食指導の時間となっていますので、毎日指導しながら食べている。給食センターの方からお手紙も届きますので、読みながら給食を食べています。健康週間に重点的に歯のことをやりましょうという時は、学校給食センターと連携してカルシウムの豊富なメニューや噛みごたえのあるメニューを出してもらい、よく噛んで食べましょうと声かけをしています。保健室では、食育ということで赤黄緑の食事をバランスよく食べましょうということを指導しています。いくら勉強をしてもほとんどの子は朝食を食べてくるんですが、中には親が朝食を食べない家があって、子どもも何も用意されないの食べてこれないとか、お菓子を食べてくるとか、そういう子どもは少ないんですが、いることは確かです。そういうご家庭には担任を通して食べてこないこれから体が成長してくる時期なので、とても大事なことで食べさせてください。と言っているんですが、なかなか親が朝何も食べない、何も用意しないという生活を何十年とされていると思うので、子どもが生まれてもその辺が改善されないという問題があるなと感じています。

(委 員) 学校での栄養指導とか給食指導は、中学校でも給食の時間が主にその場に当てられています。給食センターからおたよりを毎日いただいて、それを全校放送で流し、聞きながら食べています。中学校の場合、指導する時間がほとんどないんですけど、保健室に体調が悪いと来た生徒に前の日の生活のリズムとか今朝何食べてきたかとか今朝何時に起きたかとか基本的なことを聞くと、朝食の中身が炭水化物だけとか、せんべいが朝食という生徒が気になります。そういう生徒に対しては、朝食は大事だとか脳にも栄養あげなきゃいけないし、中学生は勉強に絡めると真剣に聞いてくれるので、そういう話はしています。

(会 長) 家庭、保護者の教育は、非常に今の世の中難しいところがあるかなと思いますが、食に関して、保護者に対して、学校では特別に指導、教育、啓発されていることはあるんですか。

(委 員) 保健室で勉強した場合には、こんなことを勉強しましたよと保健だよりを出したりとか、教室の方で栄養士さんが年に何回か来てご指導してくれた時には、こんなことを勉強していますよとお話している。保護者が学校に来て給食を食べる機会があるので、その時は栄養士さんが出向いてくれて、一緒にお話をしてくださったりしています。

(委 員) 中学校では、保健だよりや学年だよりで栄養士さんが来た時の話とか、学校でこういうことをやりました、こういう話を聞きましたということはお伝えしています。

(会 長) 親で料理知らない人が、作り方を知らなきゃ作れない、そういう人がいらっしやるのではないかなと思うのですが、どうですか。そうすると先々週位に県栄養士会の方にお問い合わせいただいたんですが、料理教室を保護者と一緒にやるとか、今回大学生でしたが、調理方法知らないですよ、そういうことを親と子一緒にそういった機会にどのように簡単に作って、朝時間のない時にどのようにやるのか、いろんなバランスを考えてとかいうことを一つの取り組みとして、調理師会の

方にも入っていただいて、やっていただくと少しいいのかなと思います。

(委員) 昨年、掘金小学校でラタトゥーユを作ったんですよ。学校にはフライパンと鍋が寄贈されて、国が絡んでいまして、最初フランスで始まったらしいんですよ。今年は穂高でどうかという話がある。子どもの目の前で刻んだやつと一緒に調理するんですよ。私たちがうまいとか辛いとしょっぱいとかいって。午前中に2回位やって、お昼前にいろいろして、昼食だったんですけど、喜んでやっています。お腹すいてるから何でもいから食べたいっていう。今の若い人たちは包丁も何もないという人が多いらしいんですけども、手間を省くのが好きなんじゃないですか。私らは手間をかけるのが仕事ですから、いくらでも協力は致します。

(委員) 子どもの食事で困っている人の割合が80%ってどういうことですか。

(事務局) 1歳6か月児健康診査、3歳6か月児健康診査の時に子どもの食事で困っていることはありますかというおたずねに対して、食事の内容で困っているとかおやつで困っている等と回答されたものです。

(委員) 離乳食はどうですか。

(事務局) 離乳食も10か月児健康相談で離乳食に対して困っていることはありますかというおたずねに対して回答されたものです。

(委員) 具体的に食事を作って見せていただければ本当にいいと思う。そういうことは残りますよね。それと先生方、食育について理解がないんじゃないかな。私も元教員なので思いきって言うと、一緒に食べているわけですよ。給食センターからくる資料も大事だけれども、この魚どこで獲れたとかそういうやり取りに1時間使ったっていいと思うんですよ。食育なんてこだわらなくて。そういうことで意識が乏しいんじゃないかという気がした。

(会長) 松川中学の養護の先生とお話しするんですが、親が知らない人が多いんじゃないかと思うんですよ。そういうところをどういう風にか市の方で少しでもいいからやってほしい。また、親をどうやって動かすかということ、出てこない家庭が多くて、出ていただければいろいろと話を、1つでも2つでも知っていただければいいと思うんですがね。

(事務局) 親の問題は非常に大きくて、例えば子どもから朝食を食べたいと言われれば、親は基本的に作るはずなんです。親が作らないのなら、子どもに朝食を要求させるのも1つの考え方かなと思っています。それには、自分の命を作る維持するには食べなきゃいけないんだ、私が勉強するには食べなきゃいけないんだ、お母さん。というのをせめて中学生くらいになれば言っていんじゃないか。小学生だってもっと友達と一緒に歩きまわる、遊びまわるためにも朝食食べていきたいの、お母さんっていうのもあっていいんじゃないかなと思うんですよ。子どもに食事を要求させる。親は子どもが要求しないし、何も言わないからいいやというところだと思う。子どもから言われれば、作り始める。これも1つの手かなと言う風には思っています。いろんなことを子どもの方が理解力が高いので、子どもに教えていくということに尽きるかなと思っています。

(委員) 鶏が先か卵が先かみたいな話だと思うんですが、ただ小さな時から家では朝ごはんを作ったところを見たことがない子どもが、いきなり中学生になって食べたいっていうかというところではない気がするんです。1番子どもの食事で悩んでいた1歳6か月の頃、その頃親は一生懸命子どもに大きくなってほしくて、食事を作る。ミルクから食事になる時期って結構大変なんですよ。食が細かったり、噛み方が下手だったり、時間がかかったり、いろんなことがあって食の悩みがあるんですけども、この頃一生懸命な親がそのまま一生懸命子どもと向き合っごはんが作れるような習慣、環境。40歳未満の方たちの朝ごはんを食べる率が以前よりもすごく悪くなっている。食べない人が増えている、ってことは子どもに作らない人もますます増えている。これってこのままいつちやっていいのかな。長野県の調査をしてもそうなんです。20年以上前の調査では、朝ごはんを食べない人は、20代の男性がちらほらだったんです。でもこの人たち結婚すれば食べるようになるのかなと当時は思っていたんです。10年後は30代の男性にそういう人が増えました。そして20代の女性もちらほら出てきたんです。今では、20代、30代、40代の方で朝ごはん欠食の方が非常に増えてます。どこかのきっかけで朝ごはん食べない習慣がついた人は、その後食べるようになるかというところ、そうではないんだということが分かってきました。例えば、夜寝る時間が年々遅くなっていますよね。食事って生活習慣のリズムとすごく連動していると思うので、例えば小学校でPRしている早寝、早起き、朝ごはんすごく的を得ていると思うんです。誰がこれをやり始めなきゃいけないというのはよく分からないんですけども、市全体としてそういう方向をつくっていくような活動ができれば子どもだけではなくて大人の健康習慣にとってもいいことだろうと思うし、この40代の方はあと20年すると60代になるんですよ。その方たちが早死にしちゃったら困るわけですよ。子どもの健康づくりだけではなく大人の生活習慣を1つテーマに大きな流れができればいいのかなと思いました。

(委員) 子どもの食事で困っている人が8割いるということでしたが、お母さんは分からないから保健師さん等に言われたことだけ守ろうとして、おばあちゃんの言うことは指導されたことと違うからと言って聞いてくれない。食事が伝達されないということがある。

(委員) 前年計画の評価のところを見ますと、朝食を食べる人の割合の増加のところが変わらない、悪化しているというのが多いですね。次の大人と一緒に朝食を食べる子どもの割合の増加が変わらないですね。それと1番最後の地産地消について関心を持っている人の割合の増加は悪化しています。課題を見ると、離乳食や子どもの食事で困っている保護者が多い。食事のアイテムを知らないのか、料理の仕方が分からないのか。例えば地産地消のところですが、年中いろんな食材があるので旬を忘

れている。春先にしか食べられない物もありますから、そういった物を発信するのが地産地消の役目だろうと感じた。この3つは、食生活、食育というものの中で捉えるならば、リンクしているところがあるような気がして、1つだけ解決したらよくなるかといったらなかなかそうではないのではないかと思う。穂高南小学校でアスパラをテーマに食育活動を昨年から行っています。体験学習の中で付近の農場を見に行ったら、箒のような木が立っていて、これ何の木ということから始まった。始めはアスパラだと分からなかった。アスパラの作り方から研究を始めたり、アスパラを作っている人はどういう人なんだろうといったら農家の人だった。農家の人たちを元気付けたいというところからアスパラの歌が出来た。霜がきてダメになったりということもあるんだけど、それを美味しく食べるにはどうしたらいいかとアスパラチャーハンを作ったりした。こういった流れが家に帰って親御さんの話題になってアスパラを1回も食べたことのない子がアスパラ好きになったり、農家でもない子がアスパラを作ってみたいという風になったり、少し発展してるようなんです。このことがすべてというわけではないのですが、これが食育なんだろうと思う。その面ではJAとしても積極的に関わっていかねければと思う。食べることは基本で、健全な土地からできたものを食べてもらうということが食育だと思う。

(委員) 栄養士会ですが、一昨年三郷小学校で栄養士会の3回連続の事業をさせていただきました。今年もこの地区でやりたいということでお願いしてあります。朝食欠食というのは、自分が食べたいと思ってても親が食べる習慣がなかったら食べることができなったり、子どものバランスを考えるということについては、子どもに直接アプローチをして親に伝わっていくのは難しいかなとあります。何度も聞いて刷り込まれてくれば、親にも言えるようになるのかもしれないですけど、子どもも1回2回聞いただけでは通り過ぎてしまうことが多いと思うので、そういうことを伝えていくのはとても大事なことかなと思いますので、ぜひ栄養士会の事業を今年もこちらの地区でやらせていただきたい。朝食を食べるといこと、食事のバランスの講義と調理実習があります。それに加えて1回は専門家の話を聞く会があります。そういう時に例えばJAさんに来ていただいて、実際の話の聞いたりとかする。例えばその学校に野菜を納入している方からお話を聞くということになると、このお家で作っているものを食べているんだなって改めて感じると、あの人頑張って作っているから頑張って食べなくちゃということにも繋がっていくのかなと思います。そういった感謝の気持ちも大事だということ子どもたちに伝えることができるのかなと思います。作物を作る、豚や牛を育てることが大事なこととか、バランス食、食事の大切さ、実際に分かっているでも自分ができなければなんにもならないということで、お料理の仕方を教えるというようなことも栄養士会では、栄養士会の事業以外のところでもできる機会が増えればいいなと思います。

④ 平成25年度食育推進予定について

(会長) それでは、平成25年度食育推進予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成25年度食育推進予定についての説明

(会長) ありがとうございます。只今の発表に関して、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(会長) 講演会に関して、人が参加したくなるような会をお願いしたい。参加体験型の催しですね。

(事務局) 6月29日に地域福祉シンポジウムを行います。3月に地域福祉計画というのを作って、地域としてぜひこれに取り組んでいただきたい、広めていきたいということで行います。基本的なコンセプトはいろいろな活動を皆さんに見てもらい、知ってもらうこと。豊科公民館とホールを借りきって、いろいろなブースを立てて、来た人にそこを知ってもらうことによって、計画の中のこれはこういうことなんだということをまずやりたいなと思います。その時にいろいろなアナウンスとか、タイアップとかいろいろ考えますが、金を使うだけが能じゃありませんので、いろいろなところに頭を下げに行きながらご協力をお願いします。ぜひ食育の委員会の中でもそんな形でぜひ取り組んでいただけたらなと思っております。この地域福祉シンポジウムは社会福祉課というところで主幹してやっていますが、健康福祉部総掛りでやりたいと思っています。健康推進課からもバックアップしてもらいながらあらゆる機会を通じていきたいなと考えています。食育関係も取り組みのアピールの機会にもなるかと思っています。

(会長) 何年かこの会で取り組ませていただいておりますが、いいなと思ったのは、レシピのコンテストがありましたね。ご家庭で小学生が料理のレシピを考えて、委員で投票しました。あれをもっと家庭でこんな作ってるんだとたくさんの人に知ってもらえるように、公の場所でやって皆で投票したらいい。

(委員) 10月の安曇野フェスタでやったらどうですか。

(事務局) 今回、現状と課題ということでやりましたが、実は農政課で対策と目標まで出してもらっているところもありますので、次回は今日いただいたご意見を基にして、現状と課題のところを練り直して、今度は対策と目標の話し合いができるようにしたい。今回事前にお送りしてないので、会議の中で読み上げましたが、次回は少しまとめたものを事前にお送りして、見ていただいて、ご意見をいただければと思います。

(会長) それではこれで終了させていただきます。ありがとうございます。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。